

1

次の取引の仕訳を示しなさい。

- a. 単純総合原価計算を採用している大阪工業株式会社は、月末に工場の従業員に対する賞与の月割額を計上した。ただし、半年分の賞与の支払予定額は ¥2,700,000 である。
- b. 月末における買入部品の実地棚卸数量は 180 個であった。よって、次の買入部品に関する当月の資料にもとづいて、買入部品勘定を修正した。ただし、消費単価の計算は先入先出法によっている。
- | | | | |
|--------|---------|-----------|-------------|
| 前月繰越高 | 300 個 | @ ¥1,150 | ¥ 345,000 |
| 当月仕入高 | 2,700 " | " " 1,200 | ¥ 3,240,000 |
| 当月消費数量 | 2,800 " | | |
- c. 等級別総合原価計算を採用している奈良工業株式会社において、1 級製品 2,000 個と 2 級製品 3,000 個が完成した。ただし、完成品の総合原価は ¥2,100,000 であり、等価係数は次の各製品/個あたりの重量を基準としている。
- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1 級 製 品 | 300 g | 2 級 製 品 | 150 g |
|---------|-------|---------|-------|
- d. 工場会計が独立している京都製作所の本社は、かねて得意先広島商店に製品 500 個を @ ¥1,300 で掛け売りしていたが、本日、そのうち 10 個が工場に返品されたので、売上高および売上原価を修正した。なお、この製品の払出単価は ¥900 である。ただし、本社には製品勘定を設けていない。(本社の仕訳)
- e. 組別総合原価計算を採用している滋賀製作所は、当月分の製造経費の消費高を次のとおり計上した。なお、外注加工賃は A 組製品に対するものである。
- | | | |
|---------|-------|----------|
| 組 直 接 費 | 外注加工賃 | ¥200,000 |
| 組 間 接 費 | 修 繕 料 | ¥145,000 |
| | 保 險 料 | ¥18,000 |
- f. 個別原価計算を採用している和歌山製作所では、製造指図書 #3 の製品が仕損じとなった。よって、補修指図書 #3-1 を発行して補修をおこない、補修のために消費した素材 ¥42,000 と賃金 ¥57,000 を仕損費に計上した。

2

兵庫工業株式会社の下記の資料によって、

- (1) 工程別総合原価計算表を完成しなさい。
- (2) 第 2 工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費を答えなさい。
- (3) 第 1 工程半製品勘定を完成しなさい。
- ただし、
- i 第 1 工程の完成品原価は、すべて第 1 工程半製品勘定に振り替えている。
 - ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、第 1 工程の完成品は第 2 工程の始点で投入されるものとする。
 - iii 加工費は第 1 工程・第 2 工程ともに製造の進行に応じて消費されるものとする。
 - iv 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資 料

a. 当月製造費用

① 工程個別費および補助部門個別費

費 目	第 1 工程	第 2 工程	補助部門
素 材 費	¥2,200,000	—	—
労 務 費	¥1,536,000	¥1,387,000	¥135,000
経 費	¥ 640,000	¥ 380,000	¥310,000

② 部門共通費を次のとおり配賦する。

第 1 工程 ¥442,000 第 2 工程 ¥161,000 補助部門 ¥115,000

③ 補助部門費を第 1 工程に 6.5%，第 2 工程に 3.5% の割合で配賦する。

- b. 月初仕掛品原価 第 1 工程 ¥ 850,000 (素材費 ¥ 500,000 加工費 ¥350,000)
第 2 工程 ¥1,260,000 (前工程費 ¥1,044,000 加工費 ¥216,000)
- c. 月末仕掛品数量 第 1 工程 600 個 (仕上り程度 60%)
第 2 工程 1,200 個 (仕上り程度 40%)
- d. 当月中に第 2 工程に投入した第 1 工程の完成品原価は ¥5,544,000 である。

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 鳥取製作所下記の資料により、製造原価報告書に記載する次の金額を求めなさい。
- a. 当期労務費 b. 当期経費 c. 当期製品製造原価

資 料

- ① 素 材 当期予定消費高 ¥ 当期実際消費高 ¥733,000
予定価格を用いており、材料消費価格差異 ¥8,000 (借方残高) がある。
- ② 工場消耗品 期首棚卸高 ¥ 18,000 当期仕入高 ¥150,000 期末棚卸高 ¥ 12,000
- ③ 賃 金 前期未払高 ¥ 34,000 当期支払高 ¥520,000 当期未払高 ¥ 50,000
- ④ 給 料 当期消費高 ¥260,000
- ⑤ 外注加工賃 前期前払高 ¥ 12,000 当期支払高 ¥110,000 当期前払高 ¥ 10,000
- ⑥ 電 力 料 当期支払高 ¥171,000 当期測定高 ¥174,000
- ⑦ 減価償却費 当期消費高 ¥210,000
- ⑧ 仕 掛 品 期首棚卸高 ¥400,000 期末棚卸高 ¥430,000
- ⑨ 当期中に副産物が発生し、その評価額 ¥70,000 は製造原価から差し引く。

- (2) 次の 1 月から 6 月までの操業度と原価発生額をもとに、高低点法により月間の固定費を求めなさい。なお、月間の正常な操業度の範囲は 500 時間から 700 時間である。

月	操業度	原価発生額	月	操業度	原価発生額
1 月	520 時間	¥760,000	4 月	570 時間	¥810,000
2 月	600 "	860,000	5 月	690 "	930,000
3 月	550 "	790,000	6 月	670 "	900,000

- (3) 次の文の のなかに、適当な金額または数量を記入しなさい。

岡山製作所は X 製品を製造し、1 個あたり ¥2,000 で販売している。短期利益計画のために、総原価を変動費と固定費に分け、直接原価計算による損益計算書を作成したところ、X 製品を 3,000 個販売した場合の変動費は ¥3,600,000 固定費は ¥1,400,000 営業利益は ¥ a であった。この損益計算書をもとに計算した損益分岐点の売上高は ¥ b であり、目標営業利益 ¥1,500,000 を達成するための販売数量は c 個であった。

- (4) 標準原価計算を採用している島根製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。なお、解答欄の () のなかに不利差異の場合は (不利)、有利差異の場合は (有利) と記入すること。

a. 完成品の標準原価 b. 作業時間差異 c. 予算差異

資 料

① 標準原価カード (一部)

S 製品 標準原価カード			
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	2時間	¥ 950	¥ 1,900
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	2時間	¥ 1,500	¥ 3,000
製品 / 個あたりの標準原価			¥ 7,800

② 実際生産数量

月初仕掛品 300個 (仕上り程度45%)
完 成 品 1,100個
月末仕掛品 100個 (仕上り程度55%)

③ 実際直接労務費
(実際直接作業時間

¥2,058,000
2,100時間 実際賃率 ¥980)

④ 実際製造間接費発生額

¥3,250,000

⑤ 製造間接費予算

変動費予算額 ¥1,540,000 (変動費率 ¥700)
固定費予算額 ¥1,760,000
基準操業度 (直接作業時間) 2,200時間

4

個別原価計算を採用している山口製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月中の取引の仕訳を示しなさい。
(2) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
(3) A製品 (製造指図書 #8) の原価計算表を完成しなさい。
(4) 月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材 400個 @¥3,400 ¥1,360,000
工場消耗品 300" " 250 ¥ 75,000
仕 掛 品 (製造指図書 #8) ¥3,478,000 (原価計算表に記入済み)

ii 素材の消費高の計算は移動平均法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。

iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,400 の予定賃率を用いている。

iv 製造間接費は部門別計算をおこない、各製品に予定配賦している。なお、第1製造部門は機械運転時間を基準とし、第2製造部門は直接作業時間を基準としている。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額	¥7,600,000	¥6,900,000
年間予定機械運転時間	19,000時間	—
年間予定直接作業時間	—	23,000時間

v 製造間接費勘定を設けている。

取 引

6月 8日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材 1,600個 @¥3,480 ¥5,568,000
工場消耗品 800" " 250 ¥ 200,000

13日 B製品 (製造指図書 #9) の注文を受け、素材1,000個を消費して製造を開始した。

24日 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。

電 力 料 ¥303,000 保 険 料 ¥390,000

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額 ¥3,532,000

うち、控除額 所 得 税 ¥284,000 健康保険料 ¥142,000

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は200個であった。よって、消費高を計上した。(間接材料)

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

製造指図書 #8 1,340時間 製造指図書 #9 1,020時間 間接作業 140時間

③ 健康保険料の事業主負担分 ¥142,000 を計上した。

④ 当月の製造経費消費高を次のとおり計上した。

電 力 料 ¥297,000 保 険 料 ¥65,000 減価償却費 ¥242,000

⑤ 当月の機械運転時間および直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

	第1製造部門		第2製造部門	
	機械運転時間	直接作業時間	機械運転時間	直接作業時間
製造指図書 #8	650時間	220時間	50時間	1,120時間
製造指図書 #9	800時間	200時間	150時間	820時間

⑥ 製造間接費を次のとおり各部門に配賦した。

第1製造部門 ¥368,000 第2製造部門 ¥492,000
動力部門 217,000 工場事務部門 90,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配 賦 基 準	第1製造部門	第2製造部門
動力部門費	kW数×運転時間数	20kW×1,450時間	10kW×200時間
工場事務部門費	従 業 員 数	3人	12人

⑧ A製品 (製造指図書 #8) 50個が完成した。

⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥3,525,000 を計上した。

⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2

(1)

工程別総合原価計算表

平成〇年6月分

摘要	第1工程	第2工程	合計
工程個別費	2,200,000	—	2,200,000
材料費	—	—	—
前工程費	—	—	—
労務費	1,536,000	1,387,000	2,923,000
経費	640,000	380,000	1,020,000
部門共通費配賦額	442,000	161,000	603,000
補助部門費配賦額			
当月製造費用			
月初仕掛品原価	850,000	1,260,000	2,110,000
計			
月末仕掛品原価		1,704,000	
工程完成品原価			
工程完成品数量	4,400個	4,200個	
工程単価	¥	¥	

(2)

第2工程の月末仕掛品原価に
含まれる前工程費 ¥

(3)

第1工程半製品			
前月繰越	1,320,000	第2工程製造	()
()	()	次月繰越	()
	()		()

3

(1)

a	当期労務費 ¥	b	当期経費 ¥	c	当期製品製造原価 ¥
---	---------	---	--------	---	------------

(2)

月間の固定費 ¥

(3)

a	¥	b	¥	c	個
---	---	---	---	---	---

(4)

a	完成品の標準原価 ¥	b	作業時間差異 ¥ ()	c	予算差異 ¥ ()
---	------------	---	--------------	---	------------

4

(1)

		借方	貸方
6月	8日		
	13日		
	24日		
	25日		
30日	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
	⑦		
	⑧		
	⑨		
	⑩		
	⑪		

(2)

部門費振替表

平成〇年6月分

直接配賦法

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部門費合計		1,167,000	368,000	492,000	217,000	90,000
動力部門費	kW数×運転時間数					
工場事務部門費	従業員数					
配賦額合計						
製造部門費合計						

(3)

製造指図書#8

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
3,218,000	140,000	第1	300	400	120,000	直接材料費	
		第1				直接労務費	
		第2				製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	50個
						製品単価	¥

(4)

月末仕掛品原価 ¥

試験場校	受験番号

原計の2得点

総得点

1

	借	方	貸	方
a	製 造	450,000	従業員賞与手当	450,000
b	棚 卸 減 耗 費	24,000	買 入 部 品	24,000
c	1 級 製 品 2 級 製 品	1,200,000 900,000	製 造	2,100,000
d	売 上 工 場	13,000 9,000	売 掛 金 売 上 原 価	13,000 9,000
e	A 組 製 造 組 間 接 費	200,000 163,000	外 注 加 工 賃 修 繕 料 保 険 料	200,000 145,000 18,000
f	仕 損 費	99,000	素 材 賃 金	42,000 57,000

2 (1)

工程別総合原価計算表
平成○年6月分

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程	合 計
工 程 個 別 費 素 材 費	2,200,000	—	2,200,000
前工程費	—	5,544,000	5,544,000
労 務 費	1,536,000	1,387,000	2,923,000
経 費	640,000	380,000	1,020,000
部 門 共 通 費 配 賦 額	442,000	161,000	603,000
補 助 部 門 費 配 賦 額	364,000	196,000	560,000
当 月 製 造 費 用	5,182,000	7,668,000	12,850,000
月 初 仕 掛 品 原 価	850,000	1,260,000	2,110,000
計	6,032,000	8,928,000	14,960,000
月 末 仕 掛 品 原 価	576,000	1,704,000	2,280,000
工 程 完 成 品 原 価	5,456,000	7,224,000	12,680,000
工 程 完 成 品 数 量	4,400個	4,200個	
工 程 単 価	¥ 1,240	¥ 1,720	

(2) 第2工程の月末仕掛品原価 ¥ 1,464,000
に含まれる前工程費

(3) 第 1 工 程 半 製 品

前 月 繰 越 (第 1 工 程 製 造)	1,320,000 (5,456,000) (6,776,000)	第 2 工 程 製 造	(5,544,000) (1,232,000) (6,776,000)
		次 月 繰 越	

3 (1)

a	当 期 労 務 費 ¥ 796,000	b	当 期 経 費 ¥ 496,000	c	当 期 製 品 製 造 原 価 ¥ 2,073,000
---	---------------------	---	-------------------	---	-----------------------------

(2) 月間の固定費 ¥ 240,000

(3) a ¥ 1,000,000 b ¥ 3,500,000 c 3,625 個

(4)	a	完成品の価額 ¥ 8,580,000	b	作業時間差異 ¥ 57,000 (不利)	c	予算差異 ¥ 20,000 (不利)
-----	---	--------------------	---	----------------------	---	--------------------

4

(1)		借 方	貸 方
6月 8日	素 工 場 消 耗 材 品	5,568,000 200,000	買 掛 金 5,768,000
13日	製 造	3,464,000	素 材 3,464,000
24日	電 力 料 料 保 險	303,000 390,000	当 座 預 金 693,000
25日	賃 金	3,532,000	所 得 税 預 り 金 284,000 健 康 保 険 料 預 り 金 142,000 当 座 預 金 3,106,000
30日	① 製 造 間 接 費	225,000	工 場 消 耗 品 225,000
	② 製 造 間 接 費	3,304,000 196,000	消 費 賃 金 3,500,000
	③ 製 造 間 接 費	142,000	健 康 保 険 料 142,000
	④ 製 造 間 接 費	604,000	電 力 料 297,000 保 險 料 65,000 減 価 償 却 費 242,000
	⑤ 製 造	1,162,000	第 1 製 造 部 門 費 580,000 第 2 製 造 部 門 費 582,000
	⑥ 第 1 製 造 部 門 費 第 2 製 造 部 門 費 動 力 部 門 費 工 場 事 務 部 門 費	368,000 492,000 217,000 90,000	製 造 間 接 費 1,167,000
	⑦ 第 1 製 造 部 門 費 第 2 製 造 部 門 費	221,000 86,000	動 力 部 門 費 217,000 工 場 事 務 部 門 費 90,000
	⑧ 製 品	5,950,000	製 造 5,950,000
	⑨ 消 費 賃 金	3,525,000	賃 金 3,525,000
	⑩ 賃 率 差 異	25,000	消 費 賃 金 25,000
	⑪ 製 造 部 門 費 配 賦 差 異 第 2 製 造 部 門 費	9,000 4,000	第 1 製 造 部 門 費 9,000 製 造 部 門 費 配 賦 差 異 4,000

(2) 部門費振替表
直接配賦法 平成〇年6月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部 門	第 2 部 門	動 力 部 門	工 場 事 務 部 門
部 門 費 合 計		1,167,000	368,000	492,000	217,000	90,000
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	217,000	203,000	14,000		
工 場 事 務 部 門 費	従 業 員 数	90,000	18,000	72,000		
配 賦 額 合 計		307,000	221,000	86,000		
製 造 部 門 費 合 計		1,167,000	589,000	578,000		

(3) 製造指図書#8 原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
3,218,000	140,000	第 1	300	400	120,000	直接材料費	3,218,000
	1,876,000	第 1	650	400	260,000	直接労務費	2,016,000
	2,016,000	第 2	1,120	300	336,000	製造間接費	716,000
					716,000	製造原価	5,950,000
						完成品数量	50個
						製品単価	¥ 119,000

(4)	月末仕掛品原価 ¥ 5,458,000
-----	---------------------